

気象研究ノート第212号
「衛星からわかる気象—マルチチャンネルデータの利用—」
発刊のお知らせ

気象研究ノート編集委員会

かつて大規模な受信施設や計算機資源を必用とした気象衛星データの利用も、パーソナルコンピュータやインターネットの進歩により、今では誰でもが簡単に扱える時代になりました。「ひまわり6号」など多チャンネル化の進んだ最近の気象衛星のデータからは、多くの応用が考えられます。この特集ではより多くの研究者に気象衛星データに興味を持ってもらい、それぞれの分野での応用に役立ててもらうため、気象衛星プロダクトを開発している著者らに、関連する情報を取り上げてもらいました。また、インターネット等を用いて気象衛星データを実際に利用するためのツールの紹介も掲載しています。

【目次】

- 第1章 マルチチャンネルデータの利用
- 第2章 Split Window データの応用
- 第3章 水蒸気画像の利用と衛星風
- 第4章 エーロゾルの観測
- 第5章 火山灰探知—火山灰の検出と応用—
- 第6章 予想衛星画像
- 第7章 ひまわりデータの利用

【編集】限部良司

140ページ，2006年12月12日発行

【価格】会員：2,500円，会員外：3,700円